



No. 26
2009 Spring

山 松 舎
寺 南 臨

もしも人にそのような仏性が備わっているのなら、なぜわざわざ修行する必要があるのだろうか？

十四歳の道元禪師は

確かに人間は自我や煩惱に覆われている。しかし、人間に仏性が備わっているからこそ、悪や煩惱に気がつくことができる。悟りとは、汚れた人間が本来の清らかさに立ち戻ることでないのか。人間が悟りに出会うためには、人間の本質を信じるだけでいいのか、あるいは努力して煩惱を払わなければならないのか。道元禪師の疑問は、まさにこのことでした。

建保二年（一二一四）十四歳の道元禪師は、三井寺の座主・公胤僧正を訪ねてこの疑問をぶつけました。

公胤僧正は静かな口調で答えました。「そなたの問への理論的解答はある。しかし、理論は答えになるまい。達磨大師が伝えた禅宗という実践宗教を、建仁寺の栄西禪師が日本に持ち帰っておる。そこを訪ねるか、中国に行けば、そなたの求める答えが得られるであろう」

いよいよ禅宗と出会うのですが、それは次号のお楽しみにいたしましょう。

特集

道元禪師ものがたり

②

比叡山で修行の第一歩を踏み出します



母・伊子の弟の藤原師家は、家名再興を願い、聡明な道元禪師を養子にして政治家に育てようと企てます。それを察知した道元禪師は……。

奥比叡の横川へ

十二歳になった道元禪師は、建暦二年（一二一二）の春の夜、暗闇にまぎれて母との思い出あふれる木幡の山荘を後に、比叡山のふもとに住む天台僧・良顕法眼を訪ねました。良顕は師家の弟ながら、姉をいたむ思いが強いと聞いていたからです。

道元禪師は会うなり出家の決意を打ちあけます。師家の思いを知っていた良顕は思いとどまらせようとしますが、道元禪師は「出家して菩提を弔ってほしい」という母の遺言を口にして、涙ながらに訴えます。

道元禪師の決意の固さを悟った良顕は、夜が明けるのを待って比叡山へ登り、奥比叡の横川的首楞嚴院に送り届けました。般若谷の千光坊という寺から修行の第一歩を踏み出したのです。

翌年四月、道元禪師は天台座主の公円僧正にしたがって髪を剃り、その翌

根源的な疑問に

横川的首楞嚴院は、憧れの恵心僧都が修行していたところです。

ここで道元禪師は、むさぼるように天台の基本的な教えを学び、大蔵経五千巻を二回も読み返しました。天台の坐禅である「天台止観」も学びました。

比叡山における当時の修行は教学が中心で、のちに禪師が取り組んだ禅の修業とはまったく違うものでした。愛する母の死を目の当たりにし、人生の無常を感じて出家した道元禪師の求道心に、十分に応えることはできなかったようです。

その一方で、天台の基本的な教え「本来本法性、天然自性身」——人は生まれながらにして仏様になりうる素質を持つており、もともと完成されたものである——に疑問を持ったのです。

三月二十三日(月)

ひがんえ

春季彼岸会を 修します



春分の日を中心とした一週間

供養の期間でもあります。

を「お彼岸」と呼びます。お寺で

臨南寺では、三月二十日(祝)～

は彼岸会を行い、先祖供養の法要
が営まれます。檀信徒の方々は、

二十二日(日)まで彼岸会写経会
を行い、二十三日(月)午後二時か

彼岸会に参加し、ご先祖のお墓に

ら彼岸会施食会を修業いたします。

家族で参り、家ではぼたもちを作
つてお供えします。

彼岸会施食会では、亡くなられた
方にお経を上げ、先祖供養の法要

るようになりました。鎌倉時代か

を行います。当日ご都合の悪い方

らは武士の間にも広がり、江戸時
代には庶民の間にも定着していき

は、事前ご回向をお受けいたしま
すので、お問い合わせください。

ました。

「彼岸」は、迷いの世界であるこの

世「此岸」に対して、悟りの世界

であるあの世のこと。お彼岸は、悟
りを開くよう努力する期間であ

るとともに、死んだ人をこの世(此
岸)からあの世(彼岸)へ渡す追善



寺景 百景



鈴木重成公しげなりご夫妻の お位牌

鈴木重成公は当山のご開基です。
正保二年(一六四五)萬安英種ばんなんえいしゅ禪師
を招いて臨南寺を開きました。重成
公は三河の生まれで、徳川家康に仕
え、大坂冬の陣・夏の陣を戦い、上
方代官として大坂へ赴任してきます。
寛永十四年(一六三七)島原の乱が
起こると、松平伊豆守から砲術隊長
に起用され活躍。四年後には天草代
官に任命され、乱で荒廃した天草復
興に力を注ぎました。

実兄の高名な禅僧鈴木正三しやうさん師の協



臨南寺にある鈴木重成公夫妻のお位牌。重成公の法名は、異中院殿 不白英峰居士です。



天草の中心市街地にそびえ立つ重成公の銅像。

力を仰ぎ、島内に三十二のお寺を建
立。乱の原因が過重な年貢にあるこ
とを見抜き、検地を行い年貢の半減
に取り組みました。しかし、その訴
えは取り上げられず、重成公は自
刃して果てたといわれます。享年六
十五歳。後を継いだのが息子の重辰しげたか。
重成公の死から六年後にやっと石高
半減が実現します。

天草島民は、重成、正三、重辰
を鈴木三公と呼んで敬愛し、鈴木神
社に祀り、島のあちこちに鈴木さま
の石像を見ることが出来ます。平成
十九年には、日本を代表する彫刻家・
中村晋也さんの制作した鈴木三公の
銅像が、天草市の中心部に建立され
ました。

2009 墨蹟カレンダー

今年も素敵な言葉がそろいました。

一月の弁財天祈祷会の冒頭でも解説しましたが、大本山總持寺貫首大道晃仙禪師の筆になる墨蹟カレンダーの言葉の意味を再録いたします。

一月二月 彩鳳丹霄に舞う

「彩鳳」は五色の羽を輝かせながら舞う鳳凰、「丹霄」は雲ひとつない青空のことです。澄みきった大空に五色の鳳凰が舞うという、まことにおめでたい情景です。しかし、その美しい景色も、私たちの心が澄みきったときはじめて眼にすることができなのです。

三月四月 花を弄べば香衣に満つ

「水を掬すれば月手に在り」に続く句です。月も花も、手をこまねいては、美しさや香りを味わうことはできません。行動することの大切さ、そして自然を愛する心の大切さを訴えています。

五月六月 雲収まりて山岳青し

雲が切れて青々とした山が見えてきたという情景ですが、山を仏性に、雲を煩惱になぞらえ、煩惱が消えて仏性が明らかに



臨南寺 住職
大澤正道

なった悟りの境地をうたったものです。

七月八月 心静かなれば即ち身涼し

心が静かに落ち着いていけば、身体も涼しく清らかである。静けさと平安に満ちた理想的な心身の状態がここにあります。

九月十月 清風明月を拂う

澄み切った空にこうこうと輝く十五夜の満月。そこに清らかな風がさつと吹いてきます。一切を払い尽くして、もう何も払うものがない。そういうすがすがしい境地です。

十一月十二月 歳月人を待たず

時間は矢のように過ぎてゆきます。その日その日をおろそかにせず全力を注ぐことが大切、という意味でしょうか。陶淵明の詩の一節です。

お彼岸にお写経を

3月20日
〜
22日

「般若心経」の二百六十二文字を写すお写経。一文字書くたびに仏様一体を刻むのと同じ功德があるといわれます。あなたも、故人の冥福を祈り、先祖を供養し、浄福を授かりませんか。

お釈迦様に甘茶を

4月8日

お釈迦様が誕生されたとき、神々は天上から花びらを降らし、竜王は産湯に甘露の雨を注いで祝福したといわれます。花祭りはその情景を再現して祝うもので、子どもの健やかな成長を祈る場でもあります。



マトリ合同法要

5月11日

がつしよ園マトリは、お墓の継承者がいなくても、永代にわたって供養していただけの永代供養墓です。合同法要は、どなたでもご参加いただけます。関心のある方は、この機会にどうぞ。

臨南寺行事予定 (三〜五月)

○ 彼岸会写経会

三月二十日(祝)〜二十一日(日)
午前十時〜午後四時
(受付は随時)

亡くなられた方やご先祖を偲びながら、二文字一文字心を込めて、お写経なさいませんか?
(費用千円)

○ 春季彼岸会施食会

三月二十三日(月)本堂にて
午後一時〜午後三時
(受付は二時三十分まで)

亡くなられた方にお経をあげ、先祖供養の法要を修します。

○ 釈尊降誕会 (花祭り)

四月八日(水)午前九時〜
本堂にて

お釈迦様の誕生を祝う法会です。花御堂の中に誕生仏を安置して、甘茶を注ぎます。ご参拝の皆様にも甘茶が振る舞われます。

○ マトリ合同法要

五月十日(日)午後一時〜
本堂でお話を聞いた後、マトリで亡くなられた方の冥福を祈ります。

臨南寺の諸行事に参加いたしましたしよう

檀家総代 村上 章 さん

私は臨南寺の役員を拝命して以来、どうすれば檀家の皆さんが一人でも多くお寺へ足を運んでいただけるかという思いで一杯でした。そこでまず早朝坐禅会と写経会に参加し、昨年からは読書会にも参加しています。

早朝坐禅会は、朝が早くて眠く、冬は寒くて尻込みしがちですが、月一回ですからぜひ体験してみてください。本格的な坐禅はほかではなかなか体験できないと思います。最近では檀家以外の方が多く聞いています。檀家の皆さんも奮って参加してください。



次が写経です。写経の話をすると、たいいての人は「私は字が下手だからだめです」といやな顔をされます。なかには謙遜の方もおられます。人生なんでも勉強です。興味を持つてみるのも経験のうちです。やってみて字がうまくなり、般若心経がそらんじて唱えられるようになれば、考え方も変わってきます。道具一式は会場に備えられています。ぜひ一度お試しください。



昨年からは始まった読書会は、「しょうぼうけんぞうずいもんき正法眼蔵随聞記」という書物です。現在、五名ほど参加されています。月一回ですが予習が必要で、先生のリードで少しずつ勉強中です。

臨南寺では年最初に年間の行事予定が配布されます。そこには皆さんがお寺にお越しただく折の参考に行事内容が載っていますが、その内容に関わらず、できるだけ関心と興味を持つていただき、時間の許す範囲で臨南寺にお集まりいただければ、何かを得てお帰りいただけるものと存じます。

臨南寺は大澤住職が就任されてから、以前とは格段の違いで、檀家の皆さんにより近づくように何事にも対処されているように思います。これからも開かれた臨南寺としてますます隆盛を極めることでしょう。

境内に鏡山部屋が 来ています



大阪春場所が三月十五日から大阪府立体育館で行われます。臨南寺には、昭和四十六年から鏡山部屋が来ています。鏡山部屋は、元横綱の柏戸が創設した部屋ですが、平成八年親方が急死、元関脇多賀竜の勝の浦親方が鏡山を襲名し、部屋を継承しました。

部屋には二人の力士がいます。鏡桜かみざくらはモンゴル出身の二十二歳。竜聖は親方の長男で二十二歳。二人とも三段目です。若いふたりの力士は、関取を目指しています。臨南寺の境内でお相撲さんを見かけたら、応援の声をかけてあげてください。

墓苑をご利用の皆様へ お願い



- 手桶を花立て代わりに使わないでください。ご使用後は必ず元の場所へお戻しください。
- お墓参り以外での駐車はご遠慮ください。境内では最徐行をお願いします。駐車中の事故等は一切責任を負いかねます。
- ペットを墓苑内に連れて行かないでください。
- トイレにオムツを流さないでください。
- お供物は、カラスなどに荒らされる原因となりますので、各自お持ち帰りください。

編集後記

昔の人は、働くことは「はたを楽にすること」と教えています。まわりの人を楽にすることが、働くことだということです。まず社会に貢献すること。お金は後からついてくるのです。そう考えれば、年齢に関係なく働けそうです。記事についてのご感想をお寄せください。(M)

お気軽にご参加ください

早朝坐禅会

毎月第一土曜日
午前六時半～ 本堂にて
*二月・八月は、お休みさせていただきます。

写経会

毎月二十日 午前十時～午後四時
写経料・千円

『正法眼蔵随聞記』読書会

毎月第二土曜日 午後三時～
*二月・八月は、お休みさせていただきます。
*いずれも事前のお申し込みが必要です。

「ほ～っと」26号

平成21年3月

編集・発行：稜伽林「ほ～っと」

編集室

〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園1-32

☎ 0120-711-493

TEL 06-6698-1001

FAX 06-6697-3330

Eメール：rinnanji@abeam.ocn.ne.jp

ホームページ：http://www.rinnanji.com